

● 看護部教育計画 <目標およびプログラム> ●

目的：看護職一人ひとりの人間としての成長と、専門職業人としての能力開発をめざし教育することで、看護部理念にそった質の高い看護を実践する。

	めやす	期待すること	ラダー項目別到達目標	研修
レベルⅠ	実務経験 1年～2年	<p>1年目 ★ケアの視点を共有する(看護とは何かを学習する) まず分からないことが聞け、実施したことが報告できる行動を期待されている。業務の流れをつかんだら、現場の状況に合わせて指示された事柄を理解できるように、ケアに必要な知識と技術を身につけよう</p> <p>2年目 ★ケアの視点を共有する(看護とは何かを明確にする) 日常業務にも慣れ少しゆとりが出てくる頃である。後輩を迎えるにあたり、学んできたことを整理しておく 専門家としての接遇技術を身につけよう</p>	<p>看護実践的：①日常生活援助のための基本的知識、技術、態度を身につけベツドサイドケアが、安全確実に実施できる ②担当患者のケアを通して看護の知識・技術を深められる</p> <p>管理的側面：チームメンバーの役割と責任を果たすことができる</p> <p>教育的側面：院内研修、看護実践を通して、看護とは何かを明確にする</p> <p>研究的側面：研究活動に参加する</p>	<p>入職時研修 心肺蘇生法 ナイチンゲールKOM I ケア理論 基本コース①②③④⑤</p> <p>人権推進研修①② 褥瘡ケア学習会 糖尿病学習会 ナイチンゲール看護論KOM I 実践コース①</p>
レベルⅡ	実務経験 3年～4年	<p>★判断力が身につく、状況に応じたリーダーシップが発揮できる</p> <p>★ケアの視点を実践に生かす</p> <p>専門領域での技術獲得に関して、日常業務を通して研究的態度で臨む姿勢が必要とされる。自己の課題を整理し、自主的に努力していく時期である また、先輩として後輩に指導することにより、自己啓発していこう</p>	<p>看護実践的：①看護過程をふまえた個別的ケアが実施できる ②理論的知識と臨床情報の関係づけができる</p> <p>管理的側面：①リーダー・受持ち看護師の役割と責任を果たすことができる ②状況に応じたリーダーシップが発揮できる</p> <p>教育的側面：ケアの視点を実践の場に生かすことができる</p> <p>研究的側面：課題に研究的に取り組み看護実践を振り返ることができる</p>	<p>ナイチンゲールKOM I ケア理論 実践コース②</p> <p>ナイチンゲールKOM I ケア理論 実践コース③</p> <p>人権推進研修③ プリセプター研修</p>
レベルⅢ	実務経験 5年～9年	<p>★職場のリーダーとして、後輩の育成ができる</p> <p>★日々の実践をケアの視点で点検することができる</p> <p>ケアの根拠に基づいた実践ができ、先輩として積極的にチームを指導していく時期である。現場では後輩育成の中心的存在になり、技術的に安定した活躍が期待されている</p>	<p>看護実践的：専門領域における看護実践の役割モデルになれる</p> <p>管理的側面：①医療チーム内でのリーダーシップを発揮できる ②あらゆる場面でのリーダーシップが発揮できる</p> <p>教育的側面：後輩および看護学生に対して指導的に関われる</p> <p>研究的側面：看護研究・研修を通して看護実践・専門看護を深めることができる</p>	<p>ナイチンゲールKOM I ケア理論 実践コース④</p> <p>学会参加</p>
レベルⅣ	実務経験 10年以上	<p>★課題達成に対して、チームの看護力を高め維持していく推進力となる</p> <p>★KOM I ケア理論をいかして実践における理論的かつ説得力のある指導ができる</p> <p>生き生きとした職場造りは先輩の姿勢が反映する。現場の問題を「仕方ない」で終わらせず、後輩の意見を取り上げ、他者を巻き込んで改善していく姿勢が求められる また、職場内にとどまらず、院内全体の改善に目を向けられるようになる</p>	<p>看護実践的：①課題達成に対して柔軟な対応ができ、看護の質を高め維持していく推進力となる ②KOM I ケア理論をいかして、看護場面における理論的かつ説得力のある指導ができる</p> <p>管理的側面：部署における課題を明確にし、目標を示しながら管理行動が取れる</p> <p>教育的側面：部署における教育的役割がとれる</p> <p>研究的側面：管理・専門看護分野における研究開発を行い、変革の推進者となれる</p>	<p>学会参加</p>
	通年	<p>☆ 専門職業人としての役割と責任を自覚し、安全で確実な技術を身につけていく</p> <p>☆ 医療の動向を知り、専門職として知識を深めると共に、教養を身につけ視野を広げる</p>		<p>役割研修：院内・院外 人権推進委員 教育委員 医療安全・業務検討委員 感染対策 外来 NST 褥瘡専任 ACLS 看護管理者 補助者 看護助手</p>